

日本での炎症性腸疾患患者さんの 新型コロナウイルス感染について(2021/1/8)

東京大学医科学研究所附属病院 外科 篠崎 大

本日の外来でも患者さんから質問がありましたが、今日現在における炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）患者さんが新型コロナウイルスにかかった状況についてのお話です。

全国の炎症性腸疾患をよく診ている医療機関では、このような患者さんを登録しています。医科学研究所附属病院でもこの研究に参加しており、もし皆さんが新型コロナウイルスにかかった場合には原則的に登録させていただいています。もちろん、個人名などは出ませんし、一人ひとりの経過を見ているのではなく、下のようなデータを作るためにです。

1. 今までの登録数：潰瘍性大腸炎 15人 クローン病 4人 分類不能腸炎 1人
2. 平均年齢： 46.4歳
3. 性別： 男 14人 女 6人
4. 他の病気： 糖尿病 0人 高血圧 2人 慢性的な呼吸器病 2人など
5. 炎症性腸疾患の活動性： 改善 2人 不変 18人 悪化 0人
6. 新型コロナウイルス感染症の重症度：
外来治療 3人 入院治療 17人 集中治療室 0人 死亡 0人

登録された患者さんは、昨年11月8日までは13人でしたが12月10日現在で20人になりました。全国的な流行を考えると、今では30人以上に達しているかもしれません。幸い、重症になったり亡くなった患者さんはいないようですし、もともとの炎症性腸疾患が悪化した人は今のところいません。欧米などの先生たちも、炎症性腸疾患患者だからと言って、他の人よりも新型コロナウイルスにかかりやすかったり、重症化し易かったりする印象はないとのことですので、いたずらに不安になることなく、さりとは全く無防備になることなく、この大変な時期を乗り越えたいものです。